**論点**

**Putnamの主張及びそれに対する筆者をはじめとした研究者(学者)たちの批判は妥当であるか。**

**①social capitalについて、各班で理解を共有する。**

**②Putnamの理論とそれに対する批判について検討する。**

◆この論点の目的としては、

1. 1章前半で中心となっているsocial capital（社会関係資本）についての理解を深める。
2. 本章の目的の一つに挙げられていた先行研究に対する批判的視点を持つ。

1章の目的として、「教育や社会関係資本に関する文献を批判的に評価する」とあったように、Putmanによる主張とそれに対する筆者による批判をまとめてみる。

**Putnam　　　　　　　　　　　　　　　　　　筆者**

1. 組織が社会関係資本や社会的結束の重要なカギとなる。
2. 教育が、個人が参加することや信頼することに対して決定的な要素である。
3. 組織的メンバーシップが社会関係資本と社会的結束のカギになる。
4. 組織間の橋渡しを促進することは、単にグループ内での結合を促進する事よりも、社会関係資本にとって重要なことである。

メンバーシップのレベルが最高峰にランク付けされているアメリカでは、犯罪や国内の民族闘争といった要素によって、明確に社会的結束が欠落している。

アメリカ国内での教育レベルが上がり続けている（特に若者世代はきちんと教育されている）のにも関わらず、社会関係資本は後退している。

個人的に組織に参加する人は、より信頼する傾向にあり、さらにより政治に従事する傾向がそうでない人と比べると高いといった程度までしか我々はわからない。

組織間の橋渡しと組織内の結束の違いを効果的に区別することができていない。